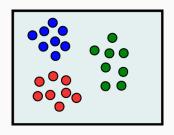
クラスタリング手法の評価に向けて

池辺 颯一 2018 年 12 月 15 日

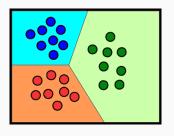
芝浦工業大学

背景

- 情報化社会の発展によりデータが複雑かつ膨大に
- ビッグデータを人の手で分類するのは難しい
- それらのデータを自動的に分類するクラスタリングに着目
- 機械学習における教師なし学習



クラスタリング前



クラスタリング後

目的

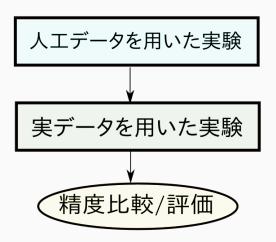
目的

 FCM の基本的な最適化問題の中から最も精度が高いものを 発見する

目標

- 各クラスタリング手法のプログラム C++を用いて開発
- プログラムの実行結果からクラスタリング精度を評価

実験方法



実験評価方法

ARI (Adjusted Rand Index)

- -1 から 1 までの範囲で精度評価を行う指標
- 1 の時に完全一致で0の時にランダム
- マイナスの値はランダムの期待値を下回る
- ARIの値が高いほど高評価

クラスタリング手法

eFCMA

$$d_{i,k} = \|x_k - v_i\|_2^2,$$

$$u_{i,k} = \frac{\pi_i \exp(-\lambda \|x_k - v_i\|_2^2)}{\sum_{j=1}^C \pi_j \exp(-\lambda \|x_k - v_j\|_2^2)},$$

$$v_i = \frac{\sum_{k=1}^N u_{i,k} x_k}{\sum_{k=1}^N u_{i,k}}, \alpha_i = \frac{\sum_{k=1}^N u_{i,k}}{N}.$$

クラスタリング手法

qFCMA

minimize

$$\sum_{i=1}^{C} \sum_{k=1}^{N} (\alpha_i)^{1-m} (u_{i,k})^m ||x_k - v_i||_2^2 + \frac{\lambda^{-1}}{m-1} \sum_{i=1}^{C} \sum_{k=1}^{N} (\alpha_i)^{1-m} (u_{i,k})^m$$

$$\begin{split} d_{i,k} &= \|x_k - v_i\|_2^2, \\ u_{i,k} &= \frac{\alpha_i (1 + \lambda (1-m) \|x_i - v_k\|_2^2)^{\frac{1}{1-m}}}{\sum_{j=1}^C \alpha_j (1 + \lambda (1-m) \|x_j - v_k\|_2^2)^{\frac{1}{1-m}}} \ , \end{split}$$

$$v_i = \frac{\sum_{k=1}^{N} (u_{i,k})^m x_k}{\sum_{k=1}^{N} (u_{i,k})^m},$$

クラスタリング手法

sFcma

minimize
$$\sum_{i=1}^{c} \sum_{k=1}^{n} (\alpha_i)^{1-m} (u_{i,k})^m ||x_k - v_i||_2^2$$
 subject to $\sum_{i=1}^{c} u_{i,k} = 1$, $\sum_{i=1}^{c} \alpha_i = 1$ and $u_{i,k} \in [0,1]$ $m > 1$

$$d_{i,k} = \|x_k - v_i\|_2^2 = \left(\sqrt{\sum_{\ell=1}^m (x_{k,\ell} - v_{i,\ell})^2}\right)^2,$$

$$u_{i,k} = \frac{1}{\sum_{j=1}^c \frac{\alpha_j}{\alpha_i} \left(\frac{d_{j,k}}{d_{i,k}}\right)^{\frac{1}{1-m}}}, \quad v_i = \frac{\sum_{k=1}^n (u_{i,k})^m x_k}{\sum_{k=1}^n (u_{i,k})^m},$$

使用する実データ

Yeast Data Set

実験結果

•